

【助成施設訪問】 むつみ北保育園

愛知県岡崎市にある〈むつみ北保育園〉には総額約100万円を助成。同園は助成金で平太鼓・長銅太鼓やバチ、台座などがセットになった和太鼓を購入した。

愛知県岡崎市にある〈むつみ北保育園〉は、岡崎市が設置する35の公立保育所の一つとして、70年の歴史があった。しかし、岡崎市の保育所を民営化する政策に伴い、2023年4月に社会福祉法人むつみ会が設置する認可保育所として生まれ変わった。

保育所の民営化は全国的には進んでいる。岡崎市では、むつみ北保育園が最初に民営化され、現在は市と法人の職員が合同で保育を行っており、3年間で完全に民営へ移行する予定となっている。公立保育所が何事も市議会などを通して決めていくのに比べて、民間運営の保育所は独自性を持った活動をスピード感を持って行えるため、運営する法人の理念が反映しやすい。

岡崎市の東部は山間地で子どもの数が減ってきているが、同園がある南部では子どもの数が増えている。同園には、園がある六ツ美地域以外の福岡や若松、中島など、さまざまな地域から多くの子どもが通っている。なかには、外国籍の子どもや障がいを持つ子どももいる。そうしたさまざまな特性を持つ子どもたちの絆を深めるため、保育に和太鼓を取り入れ、みんなで一つのことに取り組みたいと、今回の助成へ応募した。

「私が昔、働いていた幼稚園で和太鼓を購入したとき、子どもから〈先生の叩く太鼓大好

【むつみ北保育園】

愛知県岡崎市。社会福祉法人むつみ会が設置する認可保育所。0～5歳の171人が通う（2024年9月現在）。



右から、岡崎市こども部保育課の河合章好係長、むつみ北保育園の酒井昌子園長。助成金で購入した太鼓を手に。

き!」って褒められて、すごく嬉しかったです。子どもたちにも同じ喜びを味わってほしくて和太鼓を選びました。そして、私たちの園には外国籍の子、障がいを抱えている子もいます。すべての子どもたちに、演奏する楽しさを知ってもらい、日本の伝統文化を伝えていければと思っています」と同園の酒井昌子園長。

和太鼓を使うには、正しい姿勢やバチの握り方など、学ばなければいけない基本がある。同園では、保育士との練習に加え、体験を通して自ら学んでいけるように、子どもたちがいつでも和太鼓と触れ合える環境にしている。

「初めのうちは、バチを持つ力が弱く、叩くとバチが飛んでいくこともありましたが、いまでは腹筋、背筋を使って正しい姿勢を保ち、しっかりバチを握って叩けるようになり、いい音を鳴らしています。小さな乳児たちは、手で太鼓を叩いて音を楽しんでいますし、障がいがある子どもも〈あ・る・こ・う〉のように言葉に合わせて、生き生きと演奏しています。

和太鼓は、手や脚だけでなく全身を使って叩く。だから子どもたちの身体づくりに役立つ。酒井園長は、身体だけでなく、心も成長するのが和太鼓の魅力だと話す。

「太鼓の音は子どもたちの心を和ませ、自然と笑顔が溢れます。子どもの感性や心を育てるには、本物の太鼓の音を聞かせることが大切です。今回の助成で、本格的な和太鼓を購入できて本当に良かったです」

同園を訪れた日、5歳児たちが和太鼓を披露してくれた。高知の〈よさこい〉を踊るために2006年に作られた曲〈よいとこさ岡崎〉に合わせて演奏する子どもたちの顔は、とても自信に満ち溢れていた。



太鼓に触れ合う乳児 子どもたちが、いつでも太鼓に触れ合えるように、太鼓はホールに出してある。バチの持てない乳児たちでも、手でポンポン叩いて音を楽しむことができる。

また同園では、地域の高齢者を招いて、地域交流も行っている。

「2月に3日間にわたって世代間交流会を行い、近隣にある地域福祉センターなどから、毎日高齢者がたくさんきてくれました。もともと音楽教師をされていて、いまは認知症を患っているおばあさんは、子どもたちの演奏に合わせて指揮をし、昔の記憶を思い出し出しているようでした。他にも、子どもの演奏に感動して涙を流すおじいさんもいて、子どもたちにとっても、誰かに聞いてもらえるのは、大きな喜びになったようです」さらに同園では、近隣の発達支援センターや中学校に通う子どもたちと交流する機会もあり、その活動は多岐にわたる。

「私は〈来るもの拒まず〉というポリシーでやっています。これから、この太鼓を使って、さまざまな交流を継続していきたいです。高齢者や中学生、障がいを持つ子ども、そうした地域に暮らす人たちをつなぐ役割を私たちの園が担っていけるように頑張ります」と酒井園長。

岡崎市こども部保育課の河合章好係長は、「和太鼓を活用して、中高生のうちから、小さなお子さんと関わる機会や保育士の仕事に接点を持つてもらえることは、とても素晴らしいことだと思います。保育士不足が問題となるなか、むつみ北保育園の活動によって、ひとりでも多くの若者に保育士の仕事の魅力が伝われば、岡崎市の未来は明るいと思います」と語った。（文 佐藤修久／地人館）



和太鼓を演奏する5歳児 「ドーン！ ドーン！」と力強い音がホールに響く。